

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

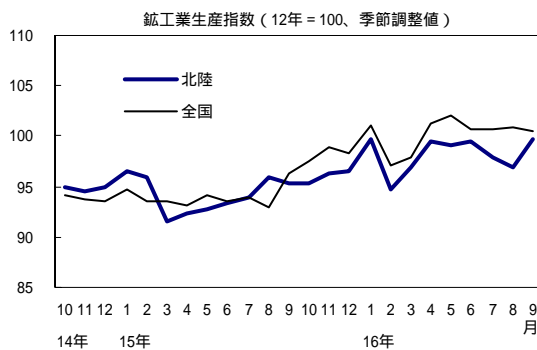
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 8 月)	今回 (平成 16 年 11 月)	
鉱工業生産	増加	おおむね横ばい	
住宅建設	減少	増加	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、国内向けは引き続き堅調に推移したものの、輸出向けが振るわなかったことから3四半期ぶりに減少に転じている。電子部品・デバイスは、デジタル家電向けに一服感がみられることから5四半期ぶりに減少に転じている。化学は、医薬品がOEM(相手先商標生産)受注増から堅調に推移していることから増加に転じている。繊維は、非衣料品が自動車内装材を中心に堅調に推移したものの、薄型テレビ・パソコン向けの電磁波遮断材に一服感がみられたことから減少に転じている。金属製品は、住宅用は堅調に推移したものの、ビル用が首都圏向けを中心に振るわなかったことから減少に転じている。



(備考) 平成 16 年 9 月の北陸は速報値。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	14.8	3.4	2.9	-	-
電子部品・デバイス	13.8	9.4	7.1	-	-
化学	12.7	7.6	10.8	-	-
繊維	12.4	2.7	2.9	-	-
金属製品	10.6	3.3	5.8	-	-
鉱工業	100.0	2.3	1.2	-	-

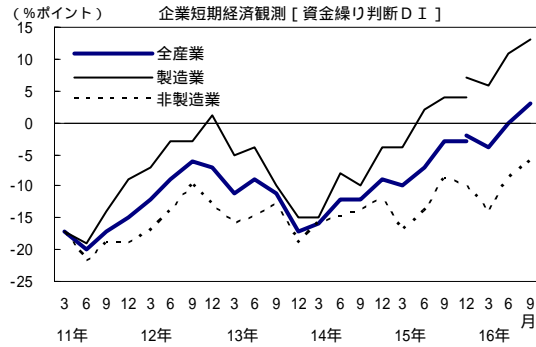
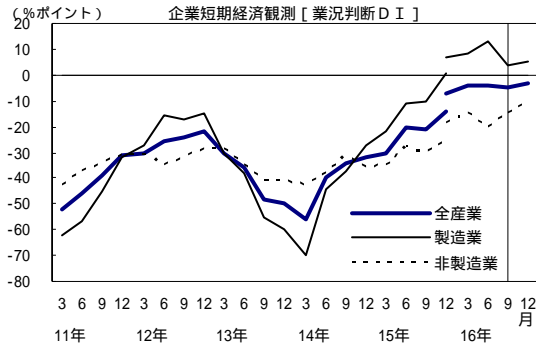
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

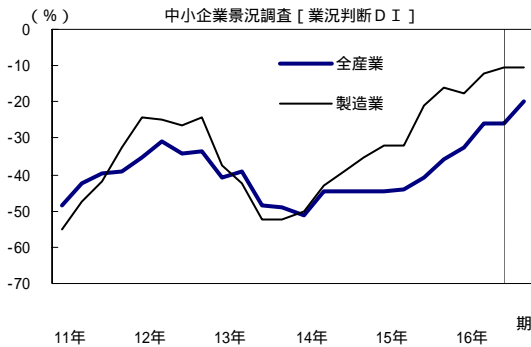
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。  
中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「電子部品業界では依然受注は好調である。建設工事関連でも、単価は依然低いままであるが、受注量は上昇傾向にある (金融業)」などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「業界内では新商品の出荷により全体量では増加すると予想していたが、既存品の販売量の落ち込みが大きく、全体ではマイナス傾向に進んでいる (食料品製造業)」などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

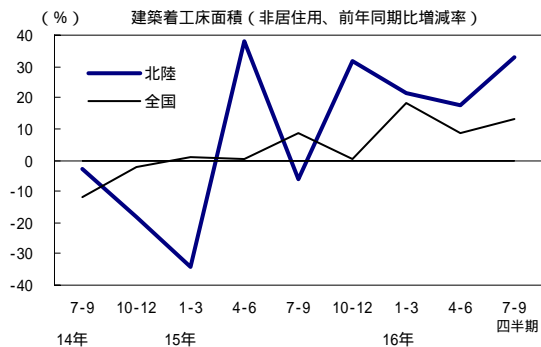
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (9月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度価
全産業	2.8	18.7 (5.4)
製造業	1.6	42.4 (5.5)
非製造業	7.8	6.5 (5.1)

(備考)( )は前回 (6月) 調査比修正率。



(6) 北陸

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

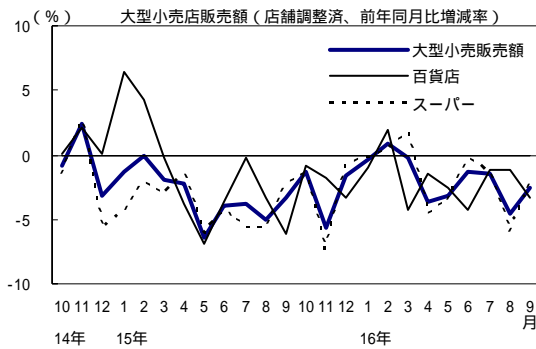
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、猛暑の影響から夏物衣料品や飲料などの季節商品が好調であったものの、その他の衣料品や飲食料品が不振だったことから、全体としては前年を下回った。8月は、台風の襲来や猛暑の影響から、前年を下回った。9月は、厳しい残暑の影響から秋物衣料品を中心とした衣料品や飲食料品が不振だったことから、全体としては7か月連続して前年を下回った。

スーパーは、7月に衣料品が2か月連続して前年を上回ったものの、天候不順により、全体としては6か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

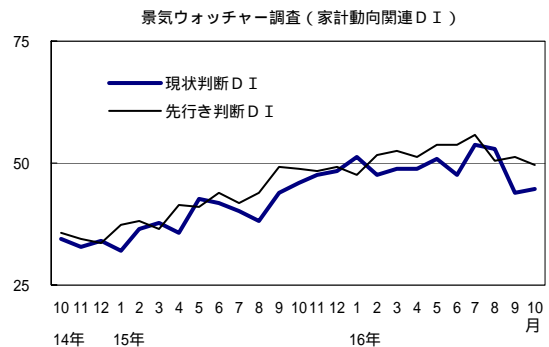
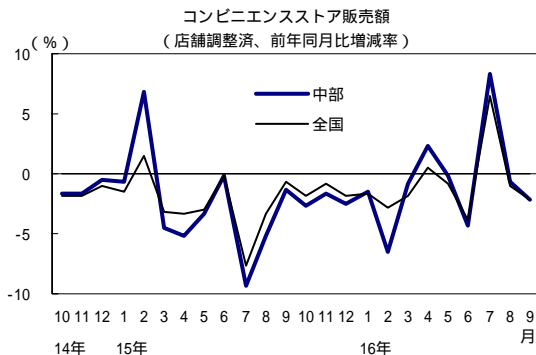
「20日過ぎまではファッション、食品、家庭用品とも秋の季節にふさわしい商品がそれなりに売れていたが、月全体でみると台風や新潟県中越地震によるマイナスの影響がみられた(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.8	0.0	2.8	2.8
百貨店	2.2	1.3	2.7	1.8
スーパー	3.2	0.6	2.8	3.3
コンビニ	2.3	3.0	0.8	1.7
景気ウォッチャー	47.3	49.1	49.0	50.2

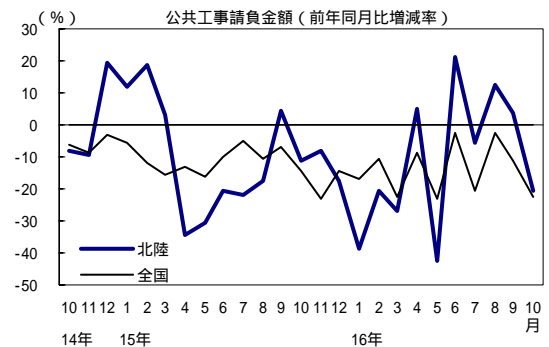
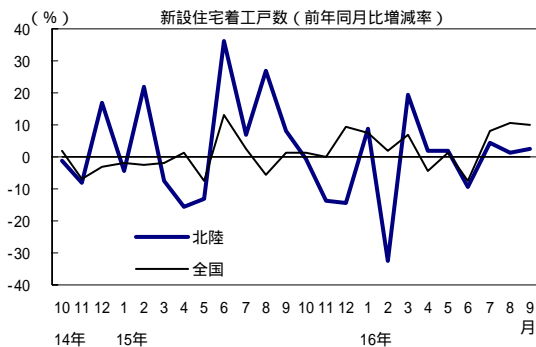
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。16年7-9月期は速報値。  
 コンビニ販売額は店舗調整済。中部地区の値。  
 2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家を中心に前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると、前年度とほぼ同水準になっている。

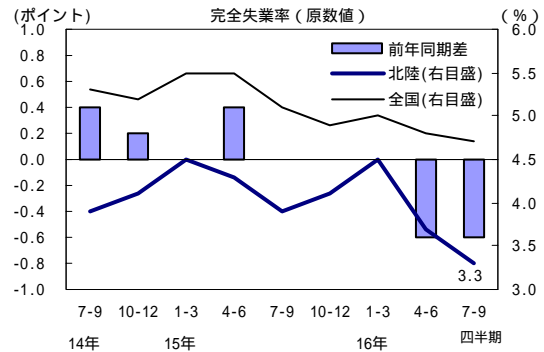
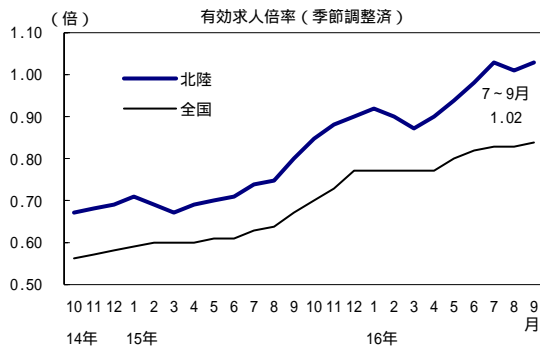


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

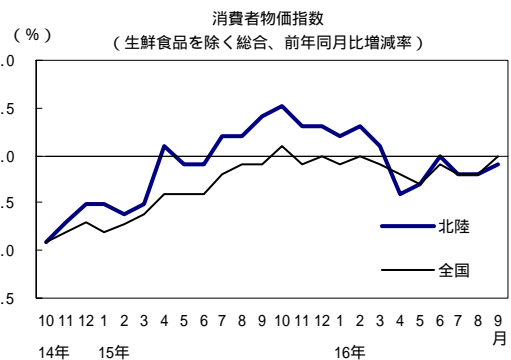
「新規求人数が特に製造業で増加している。なかでも繊維工業、電気機械器具製造業などで求人が多い (職業安定所)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	84	101	94	75	16
(前年比)	26.3	12.9	6.0	33.6	55.6
負債総額	295	539	219	428	150
(前年比)	7.0	53.8	8.1	8.7	14.9



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・来客数の動きが前年同月比で2けた以上の減少となっている。なかでも、団体客や募集客などバスで移動する旅行の動きが鈍く、自然災害や天候不順などの影響もあって、落ち込みが大きい (テーマパーク)。

<先行き>

- ・新潟県中越地震の発生により、行事の自粛ムードが高まることが予想される。加えて、レストランの通常営業の利用客増加の見込みがない (都市型ホテル)。

